



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年11月8日  
東

上場会社名 北日本紡績株式会社 上場取引所  
 コード番号 3409 URL http://www.ktbo.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)仲治 文雄  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役総務部長 (氏名)西川 康一 (TEL)076(277)7530  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の業績 (2019年4月1日~2019年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	277	28.7	△19	—	△13	—	△13	—
2019年3月期第2四半期	215	△4.9	△3	—	0	△92.0	1	△80.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	△10.85	—
2019年3月期第2四半期	1.25	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	1,403	527	37.5
2019年3月期	1,353	558	41.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 527百万円 2019年3月期 558百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	—
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の業績予想 (2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	600	32.1	△45	—	△40	—	△40	—	△32.39

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	1,291,100株	2019年3月期	1,291,100株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	56,217株	2019年3月期	56,130株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	1,234,927株	2019年3月期2Q	1,234,975株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績予想の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予測に関する事項は、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期におけるわが国経済は、世界景気が全体的に勢いを欠く中、輸出の回復は期待しにくく、内需に牽引されてきた国内景気も僅かながら陰りが見えてまいりました。しかしながら、人手不足や働き方改革を背景とした省力化投資や老朽化した設備の更新など構造的な要因がもたらす需要の強さに支えられ、今のところ増加基調を保っております。10月からの消費税の引き上げが実施されるものの、軽減税率の導入や教育・保育の無償化などの消費税対策により、家計の負担増は緩和され、消費の大幅な落ち込みは回避できそうな状況になっております。

堅調な民間企業の設備投資、雇用、所得環境の改善などプラス要因はあるものの、米中貿易摩擦、原油価格の上昇、金融資本市場の変動、中国経済の不透明さが増していることなどの多くの不安定要素があり、今後注視していく必要があります。

繊維景況においては、衣料分野では一部スポーツ・ユニフォーム等を中心に堅調に推移した分野はあったものの、全般的に国内販売は低調に推移いたしました。一方、資材関連商品に関しては、主力の衛材用途の息切れで伸びが鈍化いたしました。産業資材用途は全体として堅調に推移いたしました。

このような状況の中、当社の第2四半期累計期間の業績は、売上高277,622千円（前年同四半期比28.7%増）、営業損失19,988千円（前年同四半期は3,670千円の営業損失）、経常損失13,332千円（前年同四半期は808千円の経常利益）、四半期純損失13,397千円（前年同四半期は1,540千円の四半期純利益）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第2四半期累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

#### (紡績事業)

当社の主力であるアラミド繊維や高機能インナー向けなどの高付加価値紡績糸の商材を中心に、受注自体は堅調に推移いたしました。喫緊の課題として多品種小ロット生産への対応に取り組んでおり、徐々にその効果は現れておりますが、受注数量の小ロット化による影響が大きく、合理的な生産ができませんでした。

この結果、紡績事業の当第2四半期の業績は、売上高203,195千円（前年同四半期比5.7%減）、営業利益21,664千円（前年同四半期比39.9%減）となりました。

#### (テキスタイル事業)

中東向け生地の販売については、ラマダンセールが終了し、ここ数年間と比較すると現地の市況は回復傾向にあり、成約は順調に進みました。9月から来年2月までが販売の最盛期になるため、営業活動を強化し取り組んでまいります。

東南アジア向け生地の販売も新商品を含め順調に成約でき、今後の売上に寄与することが見込まれます。

この結果、テキスタイル事業の当第2四半期の業績は、売上高74,313千円、営業損失2,603千円となりました。

なお、各セグメントに配分していないセグメント損益の調整額は、全社費用の38,097千円であり、主に各セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

流動資産は188,635千円となり、前事業年度末に比べ60,317千円の増加となりました。これは主に現金及び預金が8,087千円増加したことと、テキスタイル事業に関する商品仕入れや売上が増加したため、商品及び製品が33,470千円、売掛金が12,481千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は1,214,708千円となり、前事業年度末に比べ10,055千円の減少となりました。これは主に紡績工場の空調機入替等の建物に関する設備投資により有形固定資産は20,101千円増加しましたが、保有株式の時価が下落したこと等により投資その他の資産の投資有価証券が29,887千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は1,403,344千円となり、前事業年度末に比べ50,262千円の増加となりました。

## (負債)

流動負債は581,798千円となり、前事業年度末に比べ64,440千円の増加となりました。これは主に短期借入金が29,500千円、紡績工場の設備投資に関する設備関係支払手形が14,790千円、テキスタイル事業に仕入高が増加したため支払手形及び買掛金が18,694千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定負債は294,423千円となり、前事業年度末に比べ17,105千円の増加となりました。これは主に長期借入金が24,960千円増加した一方で、繰延税金負債が8,334千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は876,221千円となり、前事業年度末に比べ81,546千円の増加となりました。

## (純資産)

株主資本は1,408千円となり、前事業年度末に比べ13,605千円の減少となりました。これは四半期純損失の計上により利益剰余金が13,397千円減少したことによるものであります。

評価・換算差額金等は525,714千円となり、前事業年度末に比べ17,678千円の減少となりました。これはその他有価証券評価差額金の減少によるものであります。

この結果、純資産は527,122千円となり、前事業年度末に比べ31,284千円の減少となりました。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、58,519千円となりました。当第2四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、44,063千円の減少（前年同四半期は18,057千円の増加）となりました。これは、税引前四半期純損失13,812千円の計上とテキスタイル事業の取引高が増加したことにより、売上債権の増加額12,481千円、たな卸資産の増加額33,744千円等の資金減少要因があったことによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、5,648千円の減少（前年同四半期は7,467千円の減少）となりました。これは、紡績糸生産設備に関する有形固定資産の取得による支出が8,596千円あったことによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、57,217千円の増加（前年同四半期は10,034千円の減少）となりました。これは、短期借入金の増加額が29,500千円、長期借入れによる収入が30,000千円あったことによるものであります。

## (4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想については、2019年5月14日に公表いたしました業績予想を修正しております。

詳細は、本日公表の「第2四半期業績予想と実績の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	50,431	58,519
売掛金	50,190	62,672
商品及び製品	15,888	49,358
仕掛品	5,586	4,035
原材料及び貯蔵品	2,801	4,626
その他	3,419	9,422
流動資産合計	128,318	188,635
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,976	23,796
機械及び装置(純額)	32,705	33,371
工具、器具及び備品(純額)	2,358	2,056
土地	795,477	795,477
その他(純額)	8,096	8,013
有形固定資産合計	842,613	862,714
無形固定資産		
ソフトウェア	2,021	1,752
その他	0	0
無形固定資産合計	2,021	1,752
投資その他の資産		
投資有価証券	369,638	339,751
敷金及び保証金	10,490	10,490
投資その他の資産合計	380,128	350,241
固定資産合計	1,224,764	1,214,708
資産合計	1,353,082	1,403,344

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,017	26,712
設備関係支払手形	1,415	16,205
短期借入金	456,500	486,000
未払費用	7,856	8,115
未払金	22,127	20,948
未払消費税等	4,711	3,358
未払法人税等	2,808	2,968
賞与引当金	7,508	7,138
その他	6,415	10,351
流動負債合計	517,358	581,798
固定負債		
長期借入金	—	24,960
リース債務	7,238	6,713
繰延税金負債	61,067	52,733
退職給付引当金	9,510	10,055
再評価に係る繰延税金負債	199,501	199,501
その他	—	460
固定負債合計	277,317	294,423
負債合計	794,675	876,221
純資産の部		
株主資本		
資本金	714,000	714,000
資本剰余金	1,257	1,257
利益剰余金	△647,738	△661,136
自己株式	△52,504	△52,712
株主資本合計	15,014	1,408
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	96,755	79,077
土地再評価差額金	446,636	446,636
評価・換算差額等合計	543,392	525,714
純資産合計	558,406	527,122
負債純資産合計	1,353,082	1,403,344

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	215,649	277,622
売上原価	162,643	240,166
売上総利益	53,005	37,456
販売費及び一般管理費		
役員報酬	9,000	9,300
従業員給料	13,220	14,196
賞与引当金繰入額	1,293	1,292
運送費及び保管費	3,999	3,624
その他	29,161	29,031
販売費及び一般管理費合計	56,675	57,444
営業損失(△)	△3,670	△19,988
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	5,697	6,031
為替差益	—	788
不動産賃貸料	3,647	4,825
その他	486	422
営業外収益合計	9,831	12,068
営業外費用		
支払利息	4,819	4,957
その他	532	456
営業外費用合計	5,352	5,413
経常利益又は経常損失(△)	808	△13,332
特別損失		
投資有価証券売却損	—	480
特別損失合計	—	480
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	808	△13,812
法人税、住民税及び事業税	482	478
法人税等調整額	△1,213	△893
法人税等合計	△731	△414
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,540	△13,397



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	808	△13,812
減価償却費	2,259	3,552
受取利息及び受取配当金	△5,697	△6,032
支払利息	4,819	4,957
為替差損益(△は益)	—	△581
投資有価証券売却損益(△は益)	—	480
売上債権の増減額(△は増加)	10,159	△12,481
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,488	△33,744
仕入債務の増減額(△は減少)	9,364	18,694
前渡金の増減額(△は増加)	—	△3,550
その他	△704	△967
小計	18,521	△43,486
利息及び配当金の受取額	5,697	6,032
利息の支払額	△4,819	△6,113
法人税等の支払額	△1,341	△495
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,057	△44,063
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△7,302	△8,596
無形固定資産の取得による支出	—	△1,798
投資有価証券の取得による支出	△165	—
投資有価証券の売却による収入	—	4,287
その他	—	460
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,467	△5,648
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(△は減少)	△9,000	29,500
長期借入れによる収入	—	30,000
長期借入金の返済による支出	—	△720
リース債務の返済による支出	△1,024	△1,354
その他	△10	△207
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,034	57,217
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	581
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	556	8,087
現金及び現金同等物の期首残高	83,851	50,431
現金及び現金同等物の四半期末残高	84,407	58,519

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。